

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、持ち直している」

項目	前回（5年1月判断）	今回（5年4月判断）	前回比較
総括判断	持ち直している	持ち直している	→

（注）5年4月判断は、前回1月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、物価上昇の影響もみられるものの、宿泊などサービス消費を中心に持ち直している。生産活動は、半導体関連の需要に落ち着きが見られるなど、回復に向けた動きに一服感がみられる。雇用情勢は、持ち直している。

【各項目の判断】

項目	前回（5年1月判断）	今回（5年4月判断）	前回比較
個人消費	持ち直している	持ち直している	→
生産活動	緩やかに回復しつつある	回復に向けた動きに一服感がみられる	↘
雇用情勢	持ち直している	持ち直している	→
設備投資	4年度は増加見込み	4年度は増加見込み	→
企業収益	4年度は減益見込み	4年度は減益見込み	→
住宅建設	持ち直しつつある	持ち直しつつある	→

【先行き】

先行きについては、ウィズコロナの下で、各種政策の効果もあって、回復していくことが期待される。ただし、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

【主な項目】

■ 個人消費 「持ち直している」

百貨店・スーパー販売は、物価上昇の影響もみられるものの、外出機会の増加により衣料品が堅調なことから、持ち直している。コンビニエンスストア販売は、観光地周辺や繁華街の店舗を中心に好調である。ドラッグストア販売は、化粧品需要の戻りもあり堅調である。ホームセンター販売は、日用品などの動きが鈍いことから、弱含んでいる。家電大型専門店販売は、節電効果の高い製品への買い替え需要が続いているものの、横ばいとなっている。乗用車の新車販売は、納期の改善がみられ、持ち直している。宿泊は、観光需要喚起策の効果もあり、回復しつつある。

(主なヒアリング結果)

- 衣料品は卒業式や入学式などの人数制限緩和により、フォーマルウェアを新調する動きがみられた。食品催事は値上げが続くなかでも好調である。(百貨店・スーパー)
- 節約志向から、低価格帯の生鮮食品を購入する動きが強まっている。(百貨店・スーパー)
- インバウンド需要については、観光地を中心に好調であり、みたらし団子などの和菓子がSNSで拡散されている影響もあってよく売れている。(コンビニエンスストア)
- マスク着用ルールの緩和により、口紅などのメイク用品を中心にカウンセリング化粧品の売上が戻っている。(ドラッグストア)
- 節電効果の高い高機能モデルのエアコンや冷蔵庫が好調な一方、旅行などへの消費シフトにより来店者数は減少している。(家電大型専門店)
- 部品供給が安定してきたことで自動車の生産は回復しており、1月以降の新車登録台数は、コロナ禍前の水準に近づいている。(自動車業界団体)
- 2月の宿泊稼働率は、スポーツキャンプの開催効果により非常に好調だった。3月以降も全国旅行支援などの政策効果により、県外個人客を中心に好調を維持している。マスク着用が個人判断になったことや新型コロナウイルス感染症の5類移行という制約緩和の動きもあり、外出意欲の高まりを感じている。(宿泊業界団体)
- 平日のランチや土日を中心に来店客数が増えており、売上もコロナ禍前とほぼ同水準まで戻っている。(ファミリーレストラン)

■ 生産活動 「回復に向けた動きに一服感がみられる」

食料品等は、足踏みの状況にある。電子部品・デバイスは、高水準を維持している。化学・石油製品は、弱含んでいる。汎用・生産用・業務用機械は、増加傾向に一服感がみられる。輸送機械は、供給制約の影響が緩和されつつあり、持ち直している。

- 商品を値上げしたことで販売数量が減少したため、工場の稼働率を5%ほど落としている。原材料の値上がりに伴い再値上げをするため、更なる需要の減少を懸念している。(食料品等)
- 高付加価値製品が成長をけん引しており、生産は高水準を維持しているが、海外経済の減速の影響が一部にみられる。(電子部品・デバイス)
- 海外での需要の低迷を受け、車載向け製品、パソコンやスマートフォンなどの民生向け製品の稼働率を下げている。(化学・石油製品)
- 世界的なインフレや海外景気の減速、パソコンやスマートフォン市場の低迷により、半導体製造装置市場が減速しており、このところ落ち着いた生産状況となっている。(汎用・生産用・業務用機械)
- 部材不足の完全な解消には至っていないが、新型車を中心に引き続き高い需要が続くなか、生産車種の振り替えを進めることで受注残の解消を進めている。(輸送機械)

■ 雇用情勢 「持ち直している」

有効求人倍率は、このところ横ばいとなっている。新規求人数は、宿泊業・飲食サービス業を中心に前年を上回って推移している。

- 感染症の落ち着きや全国旅行支援の効果により旅行需要が回復しつつあるため、宿泊業の求人が増加している。(公的機関)
- 大手製造業の協力会社は、生産調整の影響を受けるため、雇用慎重になっている模様。(公的機関)
- インバウンドの増加などもあり宿泊の申込みは増えているが、人手不足感が更に強まっていることから、客室稼働率を落とさざるを得ない宿泊施設もみられる。(宿泊業界団体)

■ **設備投資** 「4年度は増加見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」5年1～3月期

- 製造業では「はん用機械器具製造業」などで減少見込み、「情報通信機械器具製造業」などで増加見込みとなっており、全体では増加見込みとなっている。
- 非製造業では「情報通信業」などで減少見込み、「運輸業、郵便業」などで増加見込みとなっており、全体では増加見込みとなっている。

- 生産能力増強のための新規設備投資。(情報通信機械器具製造業)
- 新型船の建造。(運輸業、郵便業)

■ **企業収益** 「4年度は減益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」5年1～3月期

- 製造業では「パルプ・紙・紙加工品製造業」などで減益見込み、「情報通信機械器具製造業」などで増益見込みとなっており、全体では増益見込みとなっている。
- 非製造業では「宿泊業、飲食サービス業」などで増益見込み、「農林水産業」などで減益見込みとなっており、全体では減益見込みとなっている。

■ **住宅建設** 「持ち直しつつある」

- 新設住宅着工戸数(4年12月～5年2月)をみると、持家は前年を下回っているものの、貸家及び分譲は前年を上回っている。

【その他の項目】

■ **企業の景況感** 「現状判断は『下降』超」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」5年1～3月期

- 5年1～3月期の景況判断BSIをみると、全産業では「下降」超となっている。先行き(全産業)をみると、5年4～6月期は「上昇」超の見通しとなっている。

■ **公共事業**

- 公共工事請負金額(4年度末累計)をみると、前年度を上回っている。

■ **倒産**

- 企業倒産(5年1～3月期)は、件数は前年を上回り、負債金額は前年を下回っている。

3. 各県の総括判断

	前回(5年1月判断)	今回(5年4月判断)	前回比較	総括判断の要点
熊本県	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	→	個人消費は、物価上昇の影響もみられるものの、宿泊などサービス消費を中心に持ち直している。生産活動は、半導体関連の需要に落ち着きがみられるなど、拡大の動きに一服感がみられる。雇用情勢は、持ち直している。
大分県	持ち直している	持ち直している	→	個人消費は、物価高の影響もみられるなか、百貨店・スーパーや宿泊・観光関連などで客数が増加していることから、持ち直している。生産活動は、非鉄金属・金属製品において海外向けの需要により堅調となっているなど、持ち直している。雇用情勢は、宿泊業・飲食サービス業などにおいて新規求人数の増加が続くなど、持ち直している。
宮崎県	緩やかに持ち直している	持ち直している	↗	個人消費は、物価上昇の影響がみられるなか、百貨店・スーパーやレジャー・観光施設などで客足に戻りがみられることから持ち直している。生産活動は、供給面での制約などの影響がみられるなか、食料品工業などに弱さがみられ、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。雇用情勢は、宿泊業・飲食サービス業などを中心に緩やかに持ち直している。
鹿児島県	持ち直している	持ち直している	→	個人消費は、百貨店・スーパー販売や宿泊・観光施設などで客数の増加傾向が続いていることから、持ち直している。生産活動は、在庫調整の動きが拡大するなど、弱含んでいる。雇用情勢は、持ち直している。